

探究テーマを自分の関心と社会につなぐ提案書

対象の例：中学校の総合的な学習／高校の総合的な探究 | 既存の探究ノート・対話・発表準備で使います

育てたい姿の例 自分の関心と集めた情報を結び付け、理由や根拠をもって問いを見直せる。

探究の学習の中で、自己や社会との関わりにも目を向けます。学校の単元目標を土台に、問いを使う場面を選びます。

探究の過程	授業で使う問いの例	既存ノートで確かめること	私が分担する支援の例
課題の設定	「どの出来事や相手が気になった？」 「今、何を確かめたい？」	選んだ理由、身近な場面、今の疑問。 自己と課題の関わりを言葉や図にする。	問いを具体化する教材案。 生徒が選べる資料や場面の準備。
情報の収集	「誰に、何を聞けば分かりそう？」 「どの資料で確かめる？」	情報の出所と確かめた事実。 自分の予想との違いを残す。	資料候補、聞き取り項目の案。 学校の確認を経た協力者への調整。
整理・分析	「情報を比べると、何が見える？」 「考えや問いが変わったのはどこ？」	複数の情報を比較し、根拠を示す。 新たな疑問や問いの変更を確かめる。	情報を比較する教材案。 対話・助言の整理と問いの見直し補助。
まとめ・表現	「根拠から何が言える？」 「次に確かめたいことは何？」	結論と根拠、自分の関心や役割の変化。 残った疑問を次の学習につなぐ。	発表構成や助言シートの案。 合意した運営補助と記録の整理。

テーマを変えずに問いを具体化する例

架空の例：テーマ「地域のお店」
気になる場面「来店する人の変化」 → 問い「利用する人が違うと、店の工夫はどう変わる？」
資料や聞き取りを比べ、予想と違った点から、次に確かめる相手や内容を選びます。

本人の関心も同じ記録で確かめる
「どの工夫に興味を持ったか」「情報を比べて何を考え直したか」を対話で確認します。
将来の職業に必ず結び付ける必要はありません。

同じ学習の中で見取ることと分担

学校が単元の目標、課題、指導・評価、活動の実施を決めます。私は、教材の下書き、協力者調整、助言や記録の整理など、必要な準備を分担します。

記録は今のノートや成果物を生かします。自己や将来の振り返りは、学校の計画に沿って学級・ホームルーム活動等ともつなぎます。

進路希望や家庭事情を全体に話すことは求めません。話さない選択や口頭・短文等の方法を残し、個別配慮、費用、安全、情報共有と必要な手続を先に確認します。

相談の入口 「高1・今の探究テーマで問いを深めたいです」の一文から。

初回30分無料。その後の設計・資料作成・実施支援は、範囲と費用を事前に確認し、お見積もりします。

吉田正之 | キャリア教育案内人 | 2026年10月13日更新 | A3横・1枚

参照：文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」（2023年3月）第5章・総合的な探究の時間／問い・分担は吉田正之の提案です。

参照：文部科学省「総合的な学習（探究）の時間」。課題の設定・情報の収集・整理分析・まとめ表現の過程を確認。

学校・先生向け相談フォーム

toi.manabi@gmail.com

